



6月23日(火)～29日(月)は
『男女共同参画週間』です

～ 地域力^{かける} × 女性力^{イコール} = 無限大の未来 ～

国は、平成11年6月に施行された『男女共同参画社会基本法』の理解を深めるため、毎年6月23日から29日までを『男女共同参画週間』と定めています。

今年度のキャッチフレーズは、『地域力×女性力=無限大の未来』です。これは、『身近な女性の活躍を地域ぐるみで応援するもの』をテーマに公募で選ばれました。暮らしやすく元気な地域社会をつくるためには、女性の活躍・リーダーシップが必要です。これまで男性目線で考えていたことに発想の転換が生まれ、活力ある地域づくりが期待されます。

しかし、現在、家事や育児は主に女性が担うことが多いため、女性が社会で活躍するには、女性だけの頑張りではなく、家族をはじめ周囲の協力が不可欠です。

平成23年度に市が行った男女協働参画に関する意識調査では、固定的性別役割分担意識(『夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである』といった考え方)を支持する割合が、男性34.7%、女性22.1%という結果になりました。以前の調査と比較すると減少傾向にありますが、まだ性別で役割を決める考え方が根強く残っていることがわかります。

職場や家庭でも、男女どちらかに負担が偏るのではなく、お互いが協力し合っていけたらいいですね。そして、身近な女性の活躍をみんなで応援しましょう。

伊万里市美術展『実技席書会』 力強く伸びやかな作品を披露

市民参加型の美術鑑賞の機会を広めようと、第36回伊万里市美術展が市民センターでありました。これは、市美術展実行委員会と市教育委員会が毎年開催しているもので、『書』部門、中期(5月20日～24日)『写真』・『工芸』部門、

後期(5月27日～31日)『絵画』部門の日程で展示されました。前期最終日の17日には、作品解説が行われたほか、会員や小・中学生による実技席書会(市書道連盟主催)も開かれ、多くの観客が見守る中、子どもたちは一筆一筆丁寧に書いていました。



↑実技席書会で書いた作品を披露する子どもたち

郷土の文化財

カブトガニ特集①

●問合先 生涯学習課
(☎33186)

カブトガニの受難と保護活動

カブトガニは、名称に『カニ』が入っていますが、実は、生物学上はクモやサソリの仲間です。また、2億年前からその姿をほとんど変えていないことから、『生きていく化石』と呼ばれています。

日本では、瀬戸内海と九州北部の沿岸の広範囲でカブトガニが生息していました。しかし、戦後の大規模な港湾開発が、カブトガニを取り巻く環境を一変させます。生息数は激減し、生息範囲も大幅に縮小した結果、現在では、同沿岸の数か所に生息地を残すのみとなりました。

この危機的状況の中で、昭和50年代から保護活動が展開され、全国組織である『日本カブトガニを守る会』が設立されました。

伊万里市でも、伊万里湾

一帯に生息していましたが、埋め立てなどの影響で生息数は減少しました。しかし、伊万里高校理化学部が昭和35年からすでに調査・研究活動を開始していたほか、昭和54年に『伊万里市カブトガニを守る会』、平成18年には『牧島のカブトガニとホテルを育てる会』が組織され、連携しながらカブトガニの保護を進めています。このような地道な活動の結果、伊万里市では生息数が徐々に回復・安定しています。



↑産卵するカブトガニのつがい